



神々の言葉
詩篇



星 良謙

ベンチ

多くの人がそこで休み
多くの人が束の間の休息を求め
多くの人が語らう
ある人はそよ風を楽しみ
ある人は木陰を求める
ある人には恋の始まりの場所となり
ある人には恋を育む場所となる

束の間の休息と束の間の会話
多くの人がそこに座り
多くの人がそこで休む
ある人は歩き疲れて座り
ある人は涼しさを求めて休む
老いたる人がそこに座り
若き人もそこに座る
貧しき人がそこに座り
豊かな人もそこに座る
されどベンチは人を選ばず

多くの人がそこで語らい
多くの人がそこで憩う
ある人は愛を語り
ある人は嬉しさを語る
ある人はそこで悲しみ
ある人はそこで喜ぶ
されどベンチは何も語らず

束の間の休息を得たならば
人々は立ち去り
再び歩き始め
束の間の会話が終わるならば
人々は立ち去り
自らの人生を歩む
束の間の安らぎ
それがベンチの役目

注文

何を注文しているのか分からないならば
従業員にお勧めの料理を尋ねるかもしれません
あなたがその店に何度も足を運んでいるならば
友達にお気に入りの料理を勧めるかもしれません

しかしあなたの友人はその料理を気に入るかどうかはわかりません
あなたの目の前では美味しそうに食べているとしても
二度とその料理は食べないかもしれません
あなたがどれだけ美味しいと思っても
友達は美味しくないと思うかもしれないのです

あなたがどんなに美味しいと思う料理でも
それを不味いと思う人もいれば
あなたがどんなに不味いと思う料理でも
それを美味しいと思う人もいることを忘れてはなりません

あなたがどんなに相手のためにと考えたとしても
それを不愉快だと受け取る人もいるのです
あなたがどんなに相手のために尽くしたとしても
それを煩わしく思う人もいるのです
あなたの親切が相手には迷惑かもしれないのです
あなたの励ましが相手には負担なのかもしれません

安定よりも冒険を好む人もいれば
冒険することよりも安定を選ぶ人もいるのです
器用に生きる人からするならば
不器用にしか生きられない人は哀れかもしれません
不器用な人からするならば
器用に生きる人に憧れるかもしれません
しかし、人にはそれぞれの生き方があり
人にはそれぞれの幸せがあるので

あなたの幸せがあなたの友達の幸せと同じであるとは限らず
あなたの幸せがあなたの子供の幸せと同じとは限らないのです
あなたがどんなに美味しい料理であると考えたとしても
あなたの友達が美味しいと考えるとは限らないように

あなたの友達もあなたの子供も
あなたと同じことに幸せを感じるには限らないのです

あなたが親切でありたいのなら
あなたが優しくありたいのなら
相手の心を知りなさい
相手の悩みを知りなさい
相手の心を知ることなく
親切にしたとしても
相手には心の負担にしかならないのです

ピエロ

多くの人を笑わせるピエロ
多くの人々の笑う姿こそがピエロの喜び
いかにしたら多くの人々が笑い
いかにしたら多くの人々が喜ぶか

滑稽なる仕草にて人々を笑わせ
愉快的な振る舞いにて人々を楽しませる
そこにあるのは人々を笑わせる喜び
そこにあるのは人々を楽しませる喜び

自らの喜びも人々の喜びの中にあり
人々の喜びも自らの喜びの中にあり
会場に笑いがあふれ
会場が笑顔にあふれることこそピエロの喜び

人々がいかにすれば笑うかを求め
人々がいかにすれば喜ぶかを探る
日々努力し、日々考える

会場が笑いにあふれ
会場が喜びにあふれる
子供たちは笑い
大人も笑い、老人も笑う
会場は笑いにあふれ
人々は笑顔をおみやげに帰る
ピエロは人々の笑顔に満足し
神もその笑顔に微笑む

猫

猫のごとく静かに暮らすことを願う者あり
犬のごとく活動的な生き方を好む者あり
小鳥のごとく自由に生きようとする者あり
獅子のごとく強く生きることを求める者あり
それぞれに価値あり
それぞれに欠けたるものあり

猫に犬のごとく走らせても喜ばず
猫は小鳥のごとく空を飛べず
猫は獅子のごとく強き者にあらず
されど猫は猫として生きる

魚を飼う者は猫を嫌うかもしれず
小鳥を飼う者は猫を嫌うかもしれず
すべての者が猫を愛するとは限らず
すべての者が猫を飼いたいとは願わず
魚を飼う者は猫を遠ざけ
小鳥を飼う者は猫を遠ざける
されど猫には猫の価値あり
多くの者たちに愛される
されば猫は猫として生きる

犬に猫として生きることを求めるべきでなく
小鳥に猫として生きることを求めるべきでもない
自分の人生を生きよ
他の者に踊らされることなく自分の人生を生きよ
自分を知れ
自分が何者であるかを知れ
自分が何者であるかもわからず
自分の夢を持つこともなく
不平不満の人生を生きるならば
それは養鶏場の鶏のごとき生活である

しかし間違えてはならない
小鳥のごとく自由に生きることだけが人生ではない
猫のごとく静かに生きるのも人生である

いかなる人生を生きるかは自分で決めるべきことである
小鳥のように自由に生きようとするならば
賢くあらねば生きてはいけない
ただ自由だけを求めるだけであってはならない
自由の裏側にあるものを知らなければならない

どのような人生を選ぶとも
得る物があれば失う物があり
いかなる人生を生きるとも己の人生である
他の者に賞賛されることをなぜ求めるのか
なぜ認められることだけを求めるのか

不平不満を持つ者よ
なぜ慰めだけを求めるのか
なぜ認められることだけを求めるのか
なぜ注目されることだけを求めるのか
なぜ他の者の言葉に踊らされるのか
なぜ自分を鍛えようとししないのか
なぜ自分を磨こうとししないのか

自分の目標すら持てぬ者たちよ
他の者の評価を求めるのをやめよ
他の者の賞賛を求めるのをやめよ
まず自分を鍛えよ
まず自分を磨け
そして自分の人生を歩め
猫には猫の生き方があり
犬には犬の生き方がある
どのような生き方をするとしても自分が決めよ

重ねて語る
自由を求めるだけが人生であると考えてはならない
弱き者、愚かなる者が自由を選ぶとするならば
それは無謀な選択でしかない
猫の生き方にも価値があることを忘れてはならない

小鳥に餌を与えるのであるならば
実のなる木を植えなさい
公園で小鳥に餌を与えるならば
自然の森を大切にいなさい
餌を与えることが愛と考えるならば
愚かなことです

自然の中で生きる動物に
餌を与えるならば
愛を与えたと考えるかも知れない
だが動物たちが求めているのは
自らの力にて生きることなのです

あなたが餌を与え続けるならば
動物にはあなたが餌場となるのです
あなたが餌を与え続けるならば
動物は狩りを忘れるかもしれない
あなたが餌を与え続けるならば
動物はその数を増やし続けるかもしれない
そのときあなたは餌を与え続けることはできなくなるのです

やさしくすることだけが愛でなく
厳しくすることだけが愛でないことを知りなさい
大切なことは自らの人生を生きることなのです
飢えている者には食べ物が必要かもしれない
住む家のない者には家が必要なかもしれない
だが動物を飼うが如く他人に干渉をするのはやめなさい
他人に干渉することが愛だと考えることはやめなさい

暗雲迫るとき

吹き荒れる嵐ならば
外に出るのを控えても
雷雲が空を覆うならば
人は迷います

吹き荒れる吹雪ならば
外に出るのを控えても
雪雲が空を覆うならば
人は迷います

雷雲が空を覆うとも
雪雲が空を覆うとも
外に出なければならぬのなら
十分な備えをしなさい

吹き荒れる嵐の中を歩いても
得られるものは少なく
吹き荒れる吹雪の中を歩いても
得られるものは少ないです

人生の逆風が吹き荒れるなら
前に進むことをあきらめなさい
人生に暗雲が迫るなら
退くことを知りなさい

人生の逆風が吹き荒れるとき
無理して前に進むとしても
得られるものは少ないのです
人生に暗雲が迫るときに
退くことを知る者が
生き残ることができるのです

威嚇する者

弱き者は
威嚇することで力を誇示し
弱き犬の如く
吠えることで威嚇する

強き者は
力を誇示することなく
獅子の如く
一撃にて倒す

弱き者は
威嚇するために力を使い
強き者は
相手を倒すために力を使う

知恵なき者は
威嚇する者を恐れ
力ある者を侮る

知恵ある者は
威嚇する者の力を見抜き
力強き者を恐れる

心弱き者は
自らの権威を振りかざし
他の者の声を聞かず

心強き者は
自らの権威に頼らず
他の者の声を聞く

されば勇者は
力を誇示することなく
未然に危機を避け
自らの権威に頼ることなく
他の者の声を聞く

飢えたる獣

飢えたる獣は
僅かに残る草を食べ尽くし
知恵なき者は
明日の糧まで浪費する
されば無限の富を与えても
燎原の火の如く
後には何も残さず

飢えたる獣は
木の皮までも食べ尽くし
欲深き者は
その欲望に限りなく
されば無限の富を与えても
その欲望を満たすことはできず

飢えたる獣は
獰猛となり
恐怖に怯える者は怒り狂う
されば恐怖は暴力を生み
感情は暴走する

飢えたる獣の前には
弱き者は餌でしかなく
悪意ある者の前には
知恵なき者は獲物となる
されば知恵なき者は
生き残る知恵を学び
力なき者は
自らの力を知れ

見果てぬ夢

険しき道を選ぶなら
自らの力で登りなさい
助けを求めることはやめなさい
背負う荷物の重さを嘆くなら
山に登ることをやめなさい

険しき道を選ぶなら
まず自らを鍛えなさい
その苦しさを嘆くなら
別の道を歩きなさい
自分に見合った道を探しなさい

険しき道を選ぶなら
まず多くのことを学びなさい
歩き始める前に
自分の歩く道を調べなさい
道に迷うのが嫌ならば
用心深くありなさい

険しき道を選ぶなら
自らの責任にて登りなさい
その責任を負えぬなら
山に登ることをはやめなさい
自らが判断できないならば
別の道を探しなさい

その山に登ることが
如何に崇高な目的であるとしても
自らの責任から逃げることはやめなさい
現実主義者でありなさい
あなたが如何に高き山に登るとしても
それはあなたの夢なのです
あなたがその山に登ったとしても
そのことで他の者が喜ぶと考えることはやめなさい
自らの夢を追い求めるならば
現実主義者でありなさい

あなたが如何に険しき道を歩むとしても
それはあなたが選んだ道なのです
その力がないのであるならば
別の道を歩きなさい
自らの責任を果たすことなく
その夢を実現したところで
何の価値があるのですか
如何に崇高な目的があるとしても
自らの責任から逃避する者を
神は祝福することがないと知らねばならない

仮面舞踏会

仮面をつけて別の自分となり
衣装を変えて自分を捨てる
仮の自分が踊り
別の自分となって舞う

道化師となって
皆の笑いを誘う者あり
異国の衣装にて身を包み
皆の関心を集める者あり

一夜だけの夢の実現
強き者に憧れる者は
伝説の勇者となり
悠久の太古に憧れる者は
遥かなる昔の衣装にて身包む

仮面舞踏会は日常を忘れる遊び
されど自らの心を隠して生きるならば
仮面の生活が日常となり
自らの心を失う
美しき衣装にて着飾れど心は飾れず
強き者を演ずることは可能であれど
勇者となることはできず

仮面舞踏会は自らの心を知る者の遊び
華麗なる衣装にて身を包むとしても
その衣装に惑わされることなく
身分ある者を演じたとしても
その身なりにて判断しない者の遊び
自らの心を知るからこそ
別の人間を演じ
自らの価値を知るからこそ
仮面にて踊る

ブリキの勲章

美しく着飾りながらも乞食のごとく生きる者よ
美しさを誇りながらも乞食のごとく生きる者よ
相手を利用し 相手からもらうことしか考えぬ者よ
その心がどれほど人生を不幸にしていかに知るまい
その心がどれほど自らの人生を貧しくしていかに気が付くまい

神より与えられし幸福の種と引き換えに
ガラス球のごとき価値なきものを得ていることに気が付くまい
幸福の種をまくならば
さらなる幸福を生み出すことができるのに
そなたの手にしたガラス球はやがて輝きを失うであろう
自らがどれ程の価値あるものを失ったかにやがて気が付くであろう

蜻蛉のごとき人生であろうとも自ら選びし道である
鈴虫のごとく冬の訪れまで鳴き続けるがよい
やがて冬の訪れたときに初めて知るであろう
わずかな間であったとしても
多くの者の賞賛を集められたことを幸せに思いなさい
それが我らからするならばブリキの勲章であるとしても

それを誇りに思いなさい
それもまたあなたの選んだ道なのです
雨が降らなければわからないのです
北風が吹かなければわからないのです
しかしそれでもわからない者が多いのです

幸せの種が一粒でも残っていたならば大切にしまいなさい
幸せの種をまきなさい
そして大切に育てなさい
その価値を知るならば大切に育てなさい

なぐさめを求め続ける者たちへ

なぐさめを求め続ける者たちよ

癒しを求め続ける者たちよ

神の心を知らぬ者たちよ

何故その苦しみの中に学ばないのか

何故その悲しみの中に学ばないのか

何故自分の手で解決しようとならないのか

何故いたずらになぐさめを求めるのか

多くの者に悩みを話し

多くの者に慰めを求め

多くの者に同情を求め

ただ自分の心の癒しを求める

汝はいかなる心にて神の前に立つのか

汝はいかなる心にて神に救いを求めるのか

汝はどれほどの者に不平を語り

汝はどれほどの者に不満を語り

汝はどれほどの者に憎しみを語ったのか

神はその哀れな姿に涙を流す

神はその惨めな姿に涙を流す

神はその救いがたき姿に涙を流す

何故不幸への道を歩むのか

何故悪魔のささやきに耳を傾けるのか

何故甘い言葉を求めるのか

悲しみの中に

苦しみの中に

あなたが学ばなければならない学びがあるのに

神はあなたが気付くのを待っているのに

神は悲しみの涙を流す

愚かな者たちのために

哀れな者たちのために

宴の終わり

この世の栄華を謳歌する者たちよ
あなたの信じる神が真の神である者は幸いです
日々感謝する生活をすべきです
しかし自らの願いを
自らの欲望を
すべて叶えてくれる神と喜ぶ者よ
心して読みなさい

神はいたずらに叶えることはしないのです
自らを磨く心を持たぬ者の願いを聞きません
自らの力で立ち上がろうとしない者を助けません
自らの欲望を満たすために神を利用する者を助けません
神は無条件に地上を生きる者を助けません

苦難の中にこそ学ぶ必要があるのです
困難の中にこそ学ぶべき材料があるのです
自らの心を磨く材料があるのです
そのことに気付かねばなりません
いたずらに騒いではならないのです
いたずらに慰めを求めてはならないのです

地上に生きる者よ
自らの願いを叶えてくれる存在のすべてが
神であると思ってはなりません
神はいたずらにその力を誇示することはありません
神はどうしても必要なときにしかその力を使わないのです
神はあなたが自らを磨くのを待っているのです
自らの心を磨き
自らの力で
解決することを一番喜ばれるのです

あなたが自らの心を磨き始めたとき
神はあなたを助けるのです
あなたはそれに気付かないかもしれない
自分の力で解決したとしか考えないかもしれない
しかし神はあなたの手助けをしていたのです

あなたの気付かぬところで助けていたのです

それをあなたは自らの力だと考えたとしても
神は嫌な顔をすることもなく微笑んでいるのです
それは母親が子供を見守るのと同じ心です
横で親がさまざまな手助けをしたとしても
子供が自らの手で成し遂げることを
親が喜ぶように神は喜ばれるのです

親が子供の悩みを解消することは簡単であるように
神はあなたの悩みを解消することが簡単であるとしても
あなたが自らの努力でなしとげることを喜ばれるのです
それが神の心なのです

しかし地上に生きる者たちの悩みを
すべて解決してくれる神があるとするならば
自らが神を名乗り
欲望のままに生きる者たちの存在は
誰であると考えますか
それがどんな存在であるかは
あなたが地上を去ったときに知るのです

あなたが地上で実現した願いが
あなたが地上で満たした欲望が
どれほど高い宴であったかを知るのです
宴の後にその請求書が届けられるのです
そしてあなたは自らの宴の代金を支払わなければならないのです
それを逃げることはできないのです

心の傷

優しさを装うことはやめなさい
優しさの押し売りはやめなさい
愛の言葉で自分を飾ってはならないのです
愛を語るのは神を語ることなのです
愛を説くのは神の教えを説くと同じことなのです

安易に人の心に立ち入ることをやめなさい
安易に優しさを説くことをはやめなさい
安易に心の傷に触れることはやめなさい

静かに見守ることも愛なのです
何も言わないことも優しさなのです
知恵なき愛は不毛なのです
悲しみを知らぬ者の優しさは相手を傷つけるのです

誰にも触れられたくない心の痛みもあるのです
一人涙を流すときも必要なのです
その心の痛みを知る者ならば黙って見守るのです
それが優しさなのです

励ましが苦痛となることもあるのです
慰めが屈辱と受け取られるときもあるのです
同情の言葉が相手を怒らせることもあるのです

時間だけが優しさとなり
沈黙だけが愛となることもあるのです
愛を語ることだけが愛ではないのです
愛はときには沈黙となるのです

幸せな人生

あなたが幸せをつかんだなら
握り締めるのはやめなさい
幸せは握り締めたならば
砂が指の間からこぼれるように
こぼれてしまうのです

あなたが幸せを捕まえても
幸せは抱き締めたなら
風船が弾けるように
弾けてしまうのです

風を捕まえることはできますか
あなたが風を捕まえても
捕まえたときには風ではなくなります
花が如何に美しく咲いたとしても
春が永遠に続くこと願っても
季節は変わります

あなたが幸せを捕まえたとしても
その幸せは消えてしまうのです
風は捕まえても
捕まえるならば風でなくなるように
幸せは捕まえるものではなく
あなたが見つけるものなのです

幸せを見つけ続けることが
人生を幸せにするのです
小さな幸せの発見の連続が
あなたを幸せにするのです
幸せを見つけ続けるなら
風を受け続けて走る帆船の如く
あなたの人生は幸せな人生となるのです

獣の智慧

悲しみは語るとも消えることもなく
苦しみは語るとも逃れることはできず
されば悲しみを語る意味はなく
苦しみを語る価値もない

憎しみは憎しみを呼び
怒りは怒りを呼ぶ
されば憎しみを語らず
怒りを語らず

弱き犬は吠えることで
自らの力を誇示し
強き犬は吠えることなく
一撃にて敵を倒す

弱き獣は逃げることで身を守り
一瞬の隙を窺う
強き獣は自らの力にて身を守り
一瞬の隙を窺う

自らが弱き者であるならば
逃げることで身を守る
されば悲しみを語る暇なく
苦しみを語る必要なし
逃げることは弱き者の知恵であり
弱き者の武器となる

自らが強き者であるならば
困難に陥るとも
自らの力を信じ
その力を溜める
されば慰めを拒絶し
同情を拒否する

逃げることは弱き者の知恵であり
弱き者の武器となる

されど悲しみを語り
慰めを求め
苦しみを語り
同情を求める者には逃げる知恵なく
自らを滅ぼす

弱き獣は一瞬の隙に逃げ
強き獣は一撃にて倒す
その獣の知恵に学べ

多くの人が本を選び
多くの人が本を探す
ある人は歴史の本を探し
ある人は小説を探す
沢山の人がいるのに同じ本を手にしな

絵本を探す親子もいれば
童話を探す親子もあり
仕事の資料を探す人もいれば
趣味の本を探す人もあり

沢山の人の本を探す
なのに探している本は違う
沢山の本があるはずなのに
自分の探す本はなく
落胆して帰る人あり

沢山の人に本を貸し出しているのに
沢山の人の本を借りる

自分の読みたい本を探すのに
なぜ自分の人生を探さないのですか
探している本は違うのに
なぜ皆と同じ人生を生きようとするのですか

他の人には価値のない本でも
あなたには価値のない本かもしれない
他の人には価値のない本でも
あなたには価値のある本かもしれない

どの本をあなたが選ぶとしても
あなたが自分で選びなさい
勧められた本が面白くないと思うなら
自分で本を探しなさい
あなたが面白いと思う本は
あなたにしかわからないのです

知恵と勇気

知恵なき勇気は蛮勇となり

退くことを知らず

相手を侮り

自らの力を過信する

されど知恵ある者は

相手の力を侮らず

自らの力を知り

冷静に判断して

退くことを知る

知恵なき勇気は無謀となり

危機を招く

されど勇者は思慮深く

危機を避ける

知恵なき勇気は勇ましく

聞く者を酔わせれど

現実の障害は否定され

多くの者を傷つける

知恵ある者の理想は思慮深く

聞く者を酔わせず

知恵なき者は嘲笑する

如何に誠実な者であるとしても

知恵なき者が勇気を鼓舞するならば

多くの者を惑わし

如何に優秀な者であるとしても

現実の困難さを知らぬ者が

勇気を鼓舞するならば

多くの者が傷つく

されど知恵なき者は蛮勇を好み

悲壮を讃える

されば知恵なき者は

現実の困難から目を背けることを好み

理想を夢見る

知恵なき者は困難を解消するのは
努力と勇気であると考え
勇気と無謀を区別できず
知恵ある者は困難を解消するのは
努力と知恵であることを知り
困難に立ち向かうことが勇気であると知り
されば無謀を避け
最善を尽くすことが勇気とする

打ち上げ花火

夏の夜空を飾る打ち上げ花火
その華麗さに多くの人は集まります
響き渡る音は多くの人を集めます

早くから場所を確保して待つ人もいれば
その美しさに集まる人もいます
混雑することを嫌い
遠くから眺めることを好む人もいれば
近くで眺めることを求める人もいます
それぞれの人がそれぞれに楽しみます

しかしあなたが早くから場所を確保していなければ
近くで眺めることはできません
花火の音を聞いてから出掛けても
もう遅いのです

あなたが儲け話の噂を聞いたならば
それは花火の音と同じなのです
あなたがその場所にたどり着くころには
すでに花火は終わっているかもしれません

花火の音を聞いたときには
すでに場所を確保している人がいるのです
その花火が盛大であればあるほど
皆同じことを考えるのです
あなたが花火の音を聞いたならば
まず遠くから眺めることを考えなさい

列車

あなたはどこへ行こうとしているのですか
目的地は駅員に聞いてもわからないのです

あなたの乗る列車はどこへ向かっているのですか
降りる駅は車掌に聞いてもわからないのです

あなたは自分の旅の目的を知っていますか
大きな駅には沢山の人が集まります
でも目的は同じではありません

あなたは自分の乗るべき列車を知っていますか
列車に乗り遅れないために走っている人もいます
しかし待合室で待っている人もいます

あなたはどんな人生を生きようとしているのですか
自分の人生を決められないなら
それは行き先のわからない列車に乗っているのと同じなのです
あなたは自分の乗るべき列車を選びなさい
自分の人生を知るならば
あなたは自分の降りるべき駅もわかるはずですよ

あなたが自分の人生を知るならば
今なすべきことを知りなさい
すぐに列車に飛び乗らなければならないかもしれず
乗るべき列車を調べなければならないかもしれませぬ

遠くに行くことだけが大切なわけではありません
速い列車に乗ることだけが大切なわけではありません
沢山の人が乗る列車を選んだとしても
あなたの乗るべき列車であるとは限らないのです

あなたの旅の目的は何ですか
仕事ですか、旅行ですか、帰省ですか
あなたの人生に目的はありますか
そしてどんな人生を生きようとしているのですか

木を枯らす者

豊かなる自然は多くの動物を養い
豊かなる台地を一面の緑が覆うならば
多くの動物はその恩恵にあずかる

されど冬が訪れ
一面の銀世界になるならば
木はその葉を落として
春の訪れを待ち
草は種子となりて
目覚めのときを待つ

されば渡り鳥は
暖かき地を求め旅立ち
蛙は暖かき春まで眠る

厳しき冬を生きる動物は
わずかに残る草を食み
飢えをしのぐ
しかしその草もなくなるならば
動物は木の皮を剥ぎ
木の根を掘る

暖かき春が訪れるならば
雪が解けるならば
動物たちは
幼き木の新芽を食む

動物たちは語る
我らはこれほど困難に耐えて生き延びていると
だがその努力が木を枯らし
困難の原因であることを知らない
自らの困難をなげくならば
その努力が苦難の原因ではないかと疑え
困難に耐えることだけが努力であると考えてはならない

繁栄への道

なぜお客様が喜ぶ顔を喜びとしないのですか
なぜお客様を笑顔で迎えようとししないのですか
お客様の笑顔こそが最大の喜びであると思わないのですか
お店の中が笑顔であふれていたならば
その店が繁盛しないわけがないのです
お客様がいつも笑顔で帰るならば
その店が繁盛しないわけがないのです
そお客様の笑顔こそが店の財産なのです

愛を与えることが仕事なのです
喜びを与えることこそが仕事なのです
あなたの評価は結果なのです
結果ばかり求めないことです
笑顔があなたの評価なのです

愛を与えることが大切なのです
喜びを与えることが大切なのです
お客様が何を求めているかを知ることです
自分が何をできるかを知ることです
自分にできることをすることです
自分にしかない輝きを求めることです
真似をすることだけが大切ではないのです

お客様の笑顔が大切なのです
笑顔で朝を迎えなさい
笑顔で夜を迎えなさい

忘れてはなりません
愛を与えることが仕事なのです
賞賛を求めることが仕事でないのです
どうしたら喜ばれるかを考えなさい
考えることなく一日を終わったなら
学ぶことなく一日を終わったなら
きょうの一日を反省しなさい
学ぶことなく終わったことを反省するのです

日々学ぶことが大切なのです
日々自分を磨くことが大切なのです
それは自分のためではありません
多くの人に愛を与えるために学ぶのです
多くの人に愛を与えるために自分を磨くのです

忘れてはいけません
お客様の笑顔こそが財産なのです
その笑顔を見るために自分を磨くのです
評価はその結果なのです
あなたが自分を磨くことが出来たなら
あなたは繁栄の道を歩むのです

足し算と掛け算

苦難を乗り越えるために
努力することは価値あることです
しかしそれが焦りになったときには
その努力は迷走するのです
一所懸命に努力していると自らを慰めるならば
失敗に学ぶことはできないのです

あなたが現実を認めなくとも
現実は何一つ変わることはありません
あなたの努力が成果を得ないとするならば
その努力に間違いがあったのです
失敗をすることは愚かなことではありません
しかし失敗に学ばないのは愚かなことです
知恵ある者は自らの失敗から教訓を得ます
そしてその失敗を次の努力にいかします
だからこそより大きな成功を得ることができるのです

愚かなる者は自らの失敗に学びません
失敗を認めても自らの不注意と考え
自らの努力の不足と考えるのです
だから努力しても成功できないのです

知恵ある者には失敗は教訓となり
成功への糧となるのです
知恵ある者には成功から教訓を学ぶ限り
それは失敗ではないのです
より大きな成功を得るための
糧でしかないのです
だから知恵ある者には失敗はないです

愚かなる者は成功すれば慢心します
成功を自らの実力であると考え
幸運に恵まれたことに気付かないのです
だからより大きな成功を得ることができないのです

知恵ある者は成功しても慢心しません

成功には幸運が必要であることを知っているのです
そして知恵ある者には
その成功もより大きな成功からするならば
不完全な成功でしかないのです
だから知恵ある者には成功もないのです

自らが弱き者であるならば
何ができるかを考えなさい
できることから始めなさい
やめる勇気を持ちなさい
逃げる知恵を持ちなさい

努力は足し算であり
知恵は掛け算であることを知りなさい
あなたが如何に努力しても
知恵がなければ引き算になるかもしれません
あなたが失敗に学ぶことがなければ
その努力は割り算になるかもしれません
あなたに知恵があるならば
その努力は掛け算になるのです

大工

大工は数多くの道具を使います
日々その道具の手入れをすることでしょう
その道具を使うならば
誰でも良い仕事ができるかもしれませんが
しかしその道具の手入れは
誰にでもできるとは限らないのです

大工は多くの道具を使い
大工は数多くの道具を使い分けます
そして日々その道具を手入れします
大工がいつもの道具を忘れたなら
いつもの仕事はできないでしょう
大工の技は道具を使いこなす技であり
道具を手入れすることも
また大工の技なのです

人生に苦悩するならば大工に見習いなさい
大工が仕事に合わせて道具を選ぶように
あなたも自分の道具を選びなさい
自分の道具では解決できないなら
人の知恵を借りなさい
本から学ぶのもよいでしょう
経験豊かな人に尋ねるのもよいでしょう
同じ悩みを持つ人との話の中に
手掛かりがあるかもしれません
道具を選ぶことも大切なことです
そしてその道具を手入れすることも大切なことです

あなたが多くの学びを重ねることができたなら
今度はあなたが人を助ける側となるのです
数多くの知恵を持ち
そしてその知恵を活かせるなら
あなたは多くの人に愛を与える存在となれるのです
しかしそのためには数多くの道具が必要です
そしてその道具を使いこなせる技が必要です
そして日々道具を手入れすることが必要なのです

噴水

暑さが厳しい季節ならば
噴水の周囲には
人は涼しさを求めて集い
しばしのときを過ごします

流れる水の芸術は
見る人の心を和ませ
吹き抜ける風は涼しく
暑さを忘れませ

しかし秋風が吹くならば
噴水は役目を終え
人々はその存在を忘れませ
秋風が吹くならば
噴水が如何に美しくとも
人は集まらないのです

秋風が吹くならば
幕が降りたことを知りなさい
舞台から去ることも大切なのです
秋風が吹くならば
役目を終えたことを知りなさい
如何に高く水を吹き上げたとしても
人は寒さに震え
噴水から遠ざかるのです

猟師と鶺鴒

猟師は猟犬に忠実に動くことを求めます
しかし猟犬は自らの力にて獲物を捕らえません
獲物を捕らえるのは猟師の役目であり
猟犬の役目ではないのです

鶺鴒は巧みに鶺鴒を操ります
しかし魚を捕らえることは鶺鴒の判断に任せます
だから鶺鴒匠は鶺鴒を自由に泳がせるのです

あなたが忠実であることを求めるならば
自らの判断にて行動することを求めるのはやめなさい
それは猟犬に獲物を捕らえることを求めるのと同じです

あなたが自らの判断にて行動することを求めるならば
鶺鴒匠が鶺鴒を自由に泳がせるように
自由に行動させなければならないのです

鶺鴒匠が鶺鴒を猟犬のように扱うならば
鶺鴒は自らの判断にて魚を捕らえるのをやめてしまいます
猟犬に獲物を捕らえることを求めても
与えられた役目しかできないのです

豊作の秘訣

種をまくならず土に適した種を選びない
豊かな実りを期待するなら
まず作物を選びなさい

土に適さない作物は育たないので
隣の畑が豊作であるとしても
あなたの畑では不作となるかもしれません
同じ作物の種をまいたとしても
豊かな実りとなるとは限らないのです

あなたは嘆くかもしれない
如何に努力しているかを語るかもしれない
水を与え
肥料を与え
雑草を抜き
害虫を駆除し
その努力は人並み以上かもしれない

だがあなたの畑は日当たりが悪いかもしれない
水はけが悪いかもしれない
風通しが悪いかもしれない
自分の努力が実らないと嘆くなら
土に適さない作物を育てているのかもしれません

あなたが自分の人生にて努力が報われないと考えるなら
その目標があなたに適していないのかもしれません
自分に適した道を選ぶことは成功の秘訣なのです

しかしあなたが自分の選んだ道を捨てられないならば
その道に適した人の数倍の努力をしなければ同じ成果は得られません
まず心を変えなければならないのです
あなたが当然だと考えることが当然ではないのです
あなたが自分の努力が評価されないと考えるならば
自分に適した道を選びなさい
それが成功の秘訣なのです

正義の玉座

正義の剣を振りかざし
批判してみても
それは破壊しか生みません

如何に正義の立場に立つとしても
生み出されるのは破壊なのです
その切れ味が鋭ければ鋭いほど
責任は重くなるのです

自らの言葉に責任を負わないのであるならば
正義の立場に立つのはやめなさい
如何にその批判が正しいとしても
自らの言葉に責任を負わなければならないのです
あなたが自らの言葉に責任を終えないならば
批判するのはやめなさい

正義の剣の力は価値の創造ではありません
その力が強ければ強いほど
慎重でなければなりません
それは悪を許すことではありません
正義の剣は破壊する力なのです
もしあなたが思い込みだけで判断し
その判断が間違っていたら
あなたは殺戮者でしかありません

悪は許されるべきではありません
しかしあなたの考える正義だけが
正義であるとは限りません
あなたが先入観だけで判断するならば
多くの人を傷つけることになります
あなたが思い込みだけで判断するならば
殺戮者でしかありません

指導者の責務

勇気なき者は希望にすぎり

困難から逃げる

勇気ある者は希望を持ちて

困難に立ち向かう

勇気なき者は希望を語れど

自らが責任を負うことを恐れ

決断することに怯える

勇気ある者は

自らの責任を自覚して

決断から逃げず

勇気なき者の決断は恐怖に満ち

失敗を恐れ

冷静さを失う

勇気ある者の決断は不安に耐え

失敗を恐れず

冷静さを失わず

勇気なき者は決断すれど

責任を問われることに怯え

決断したことを後悔し

言い訳を探す

勇気ある者は

最善を尽くすことを考え

なすべきことを探す

勇気なき者は

失敗するならば

他の者に責任を問い

自らは責任を負わず

成功するならば

自らの成果として

他の者の功績を認めず

勇気ある者は

失敗するならば

自らが責任を負い
成功するならば
他の者を讃える

勇気なき者は
自らの保身を優先し
勇気ある者は
自らの責務を優先する

勇気なき指導者は
自らの保身に終始し
決断することができず
されば勇気なき指導者は
指導者の資格なく
自らの決断に責任を負うことが
指導者の資格であり
決断こそが指導者の責務となる

国王の資格

国が平和なとき

国民は国王の仕事を忘れます

国が豊かなとき

国民は国王の仕事を忘れます

国が平和なとき

国民はそれを当然と考えます

国が豊かなとき

国民は自らの力と考えます

国が戦乱のとき

国民は国王に力を求めます

国が飢饉のとき

国民は食料を求めます

国が乱れるならば

国民は正義を求めます

国民は困難なときには

国王に助けを求めます

国民は国難のとき

国王に期待します

困難から救ってくれるならば

国民は賞賛します

国難を打ち破るならば

国民は拍手で出迎えます

しかし繁栄が長く続くならば

国民は国王のことを忘れます

本当に優れた国王は国民に賞賛されないのです

しかし国王は賞賛されることを求めません

賞賛の拍手を求めるならば国王の資格はないのです

国王は国民が幸せに暮らすことが喜びなのです

国王は国民にその存在を忘れられることが最大の喜びなのです

それが国王の資格なのです

神々の言葉 詩篇

<http://p.booklog.jp/book/24112>

著者：星 良謙

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/raifuku/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/24112>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/24112>